



担い手通信



JA bank Mie

Topic

今月の話題

名称	大豆固形分	成分、加工
とうふ	10%以上	大豆、凝固剤、水だけを使用
調製とうふ	8%以上	副原料を用い、味、食感などを調製
加工とうふ	6%以上	調製とうふよりも加工度の高いもの

※豆腐公正競争規約設定委員会の資料を基に作成

豆腐業界の定義作りは、製品表示に関する規約策定

豆 腐の定義作りに業界が乗り出しました。これまで定義が曖昧だったため、大豆の使用割合が多いこだわりの製品と、安値になりがちな汎用(はんよう)品とが、同じくくりで販売されてきました。品質に応じた製品表示で不当販売を防ぎ、製造業者や原材料の供給元となる農家が適正な利益を得られるようになります。

大豆10%以上「とうふ」 豆腐業界初の定義 「品質」明確に安売りを防止

19年3月
認証めざす

の中で進めています。主導するのは、豆腐事業者の全国団体でつくる豆腐公正競争規約設定委員会。「豆腐の定義や表示方法が不明確だったことが、不当販売の要因だった」と対応に動きました。

定義では、豆腐に含まれる大豆の割合「大豆固形分」を基準に、10%以上を「とうふ」、8%以上を「調製とうふ」、6%以上を「加工とうふ」と大まかに分類します。6%に満たないものや、卵を

主原料とするたまご豆腐などは除外します。

加工状態や硬さに応じて「木綿」「ソフト木綿」「絹ごし」「充てん絹ごし」「寄せ(おぼろ)」と五つの中分類も設けます。「最高級」「天然」「純粹」など、根拠が定かでない表示を禁止し、添加物もさらに詳細な表示を義務付ける方針です。

豆腐を固形分の割合で定義し、表示するのは初めての試みです。乳脂肪分を基準に分類するアイスクリームなどを参考にしたといいます。「大豆や凝固剤をどのくらい使っているかが分かり、仕入れ側や消費者が製品を選べるようになる。汎用品や高級品のすみ分けも進む」と委員会に参加する豆腐メーカー・さとの雪食品の村尾誠常務は強

調します。

豆腐公正競争規約設定委員会では、来年初めの消費者庁への認定申請に向け、事業者の説明を進めています。公正取引委員会での審査などを経て、2019年3月末の認定・告示を目指します。

数字でみえる 三重県の農と食

522キロ

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

水稲10ア-当たりの収量

東海農政局「東海3県の水稲(平成28年産)」によると、平成28年産の三重県の水稲10ア-当たりの収量は522キロ。平成27年産に比べ32キロ増加し過去最高となっています。木曾岬町・玉城町・伊勢市の3市町が同550キロを超え、東海3県の市町村の中で上位を独占しています。

ピックアップ pick up

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

耕種的防除でナタネ菌核病を軽減 たん水処理中耕など組み合わせる効果

三重県農業研究所

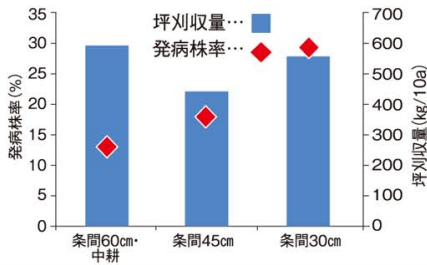
は、耕種的防除を活用したナタネ菌核病の軽減技術を開発しました。作付け前の夏季たん水処理、中耕などを組み合わせることで安定多収が得られるとしています。

ナタネ菌核病の発生が目立ってきており、安定生産技術の確立が求められています。試験を行った圃場では、①ナタネ作付け前には、②たん水処理③条間代かきと、1ヵ月程度の夏季たん水処理④条間を60cm程度とし中耕を60cm程度とし中耕を実施⑤「ギザキノナタネ」「ななはるか」「ななしぎぶ」などの菌核病に抵抗性のある品種の活用⑥周囲溝の設置、畝

立て播種(はしゆ)などの排水対策の徹底と、四つの技術を組み合わせることで、10ヶ畝あたり350kg以上の坪刈収量が得られ、発病株率も低くなりました。栽培に当たって、同研究所は「長期の連作はナタネ菌核病以外の病害虫や雑草増加の要因にもなるので、水稲との輪作を行うことが望ましい」としています。

播種様式と菌核病の発病程度および収量

夏季たん水処理
前作ナタネ収穫後1ヵ月程度
播種:10月12日、
小明渠作溝同時畝立播種
中耕処理:12月20日
品種:ギザキノナタネ



お問い合わせ先 三重県農業研究所 伊賀農業研究室 ☎0595-37-0211

JAいがほくぶ

密苗の効果検証 省力化・コスト削減に期待

JAいがほくぶはヤンマーと協力して2017年から、密苗の圃場(ほじょう)実験を行っている。1箱当たりの播種(はしゆ)量が多い密苗が、農作業での負担やコストを軽減できるのかを調べるため、生育を観察し、結果を分析する。

密苗は通常育苗箱1箱当たり100~150²の播種量を増やし、高密度にすることで、面積当たりの育苗箱を減らす技術。田植え作業の省力化やコスト削減で、農家の所得向上につながる。(2017/6/1 ワイド2東海)

JAいがほくぶ

親子で田植え 過去最高100人

JAいがほくぶはこのほど、コープみえと共同で「お米づくり体験」を伊賀市川合の交流田で開いた。特別栽培米「和(なごみ)」を親子で植える田植え体験や、炊きたてのおにぎりの試食を通じて、米を作ることや食べることの「楽しさ」「大切さ」を学ぶことが目的だ。20年以上前から続く取り組みで、今回は過去最多となる県内の親子約100人が参加した。(2017/6/3 県版三重)

JA伊賀南部

多くの生き物子どもら発見 生息状況調べ歓声

JA伊賀南部とJA全農みえはこのほど、同JA管内の名張市立薦原小学校で「田んぼの生きもの調査」を行った。5年生24人が参加し、たも網を手に水田に入り、調査を始めた。子どもたちは、稲の間や泥の中に生き物を見つけ、捕まえるたびに歓声を上げていた。今回の調査で、オタマジャクシ、カエル、クモ、ドジョウ、エビ、タニシなどを発見し、田んぼには多くの生き物が生息していることを確認した。(2017/6/17 県版三重)

農業資金 さらに使いやすくなりました!

三重県農業信用基金協会では本年5月から農業資金における保証料率の引き下げと無担保枠の拡大を行い、農業資金のお借り入れがさらにご利用いただきやすくなりました。詳しくは、最寄りのJA窓口にお尋ねください。

保証料率の引き下げ

各農業資金の保証料率を0.03%※引き下げました。
※ただし、農業経営資金は保証料率の特別対応を実施中ですので変更がありません。その他一部例外があります。

経営状況が優良な個人・法人の方はさらに0.1%引き下げ

優ランクとして保証料が優遇される基準点数を引き下げ、これまでより多くの方が対象になります。

無担保枠の拡大

無担保無保証人貸付限度額の拡大により、これまでの2倍になりました。

三重県農業信用基金協会

《金利情報》平成29年6月19日現在

農業近代化資金

実質金利
年0%~0.30%
(固定金利)

※認定農業者の方は、市町や(公財)農林水産長期金融協会の利子補給等により、お借入ができます。

スーパーS資金

年1.5%
(変動金利)